

P-1-5

宮城県における全国がん登録届出支援の取り組み

～宮城県がん登録みやぎの手引き【実践編】の作成～

目崎はる香¹⁾佐藤優希¹⁾斎藤美登里¹⁾植野由佳¹⁾佐藤洋子¹⁾金村政輝^{1,2)}

¹⁾宮城県立がんセンター宮城県がん登録室

²⁾宮城県立がんセンター研究所 がん疫学・予防研究部

はじめに

- ・宮城県では、全国がん登録届出担当者の支援として例年、講習会を開催していたが、新型コロナウィルス感染症の感染拡大により会議室等での開催ができない状況にあった。
- ・このことから、令和2年度より講習会に代わる資料として「宮城県がん登録みやぎの手引き【実践編】」を作成し、県内の医療機関へ配布したので報告する。



取り組み

- ・これまでの講習会では、届出情報の作成について理解を深めるために、届出項目毎に説明を行い、演習問題を実施していた。
- ・今回、講習会に代わる資料の作成にあたり、届出情報の作成が円滑にできるような資料とする目的とし、作成した。

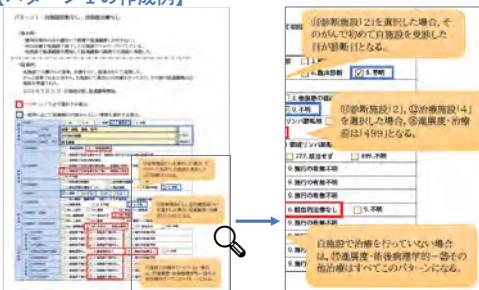
取り組み①電子届出票の作成例

- ・届出項目の診断施設と治療施設の組み合わせから、作成パターンを5つに分類し、そのパターン別の作成例を項目ごとの注意点と併せて作成した。

【届出票の作成パターン】

- パターン1：自施設診断なし・自施設治療なしの場合
- パターン2：自施設診断なし・自施設治療ありの場合
- パターン3：自施設診断あり・自施設治療なしの場合
- パターン4：自施設診断あり・自施設治療ありの場合
- パターン5：白血病・多発性骨髄腫(C42.0, C42.1)等の場合

【パターン1 の作成例】



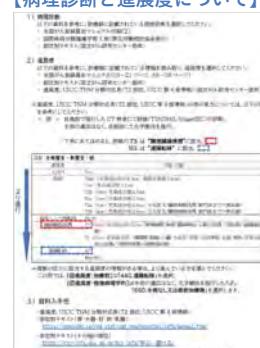
取り組み②届出票作成時の参考資料

- ・選択を誤りやすい側性は、側性のある臓器の一覧表を作成し、理解が難しい病理診断や進展度については、参考資料を案内するように作成した。

【側性について】



【病理診断と進展度について】



取り組み③オンラインシステムでの届出方法

- ・オンラインシステムに関する問合せが多いことから、届出方法や届出エラーの確認手順を作成し、令和3年度には届出前の事前準備などを追加した。

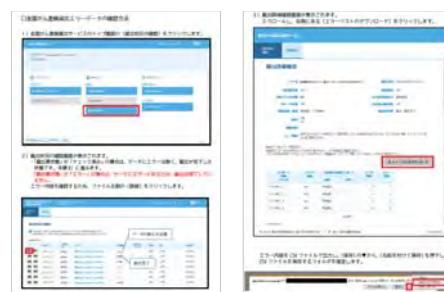
【届出方法】



【届出前の事前準備】



【届出エラーの確認方法】



手引き配布前後の問合せ

- ・届出担当者からの全国がん登録に関する問合せについて、手引きの配布前の平成31年と配布後の令和3年を比較した。
- ・問合せ施設数は、49施設から48施設とほぼ横ばいで、問合せ件数は、120件から105件と12.5%減少した。

	平成31年 (2019年)	令和3年 (2021年)	増減
届出対象施設数	139	136	-3(-2.2%)
問合せ施設数	49	48	-1(-2.0%)
問合せ施設割合	35.3%	35.3%	±0
問合せ件数	120	105	-15(-12.5%)

まとめ

- ・新型コロナウィルス感染症の感染拡大が収束せず、2年続けて講習会に代わる手引きを県内医療機関へ配布した。
- ・結果、全国がん登録に関する問合せ件数は減少したが、問合せ施設数はあまり変動がなかった。
- ・このことから、医療機関によっては個別相談や出張支援、オンライン講習会の開催など検討していきたい。

日本がん登録協議会

第31回学術集会

COI開示

筆頭演者名：目崎 はる香

当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。